

【施策14】 魅力創造・発信

～歴史や文化を守り活かし、人を引き付ける魅力があふれるまち～

- ◆展開方向01：まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。
- ◆展開方向02：尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人との交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。
- ◆展開方向03：まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、新たな文化芸術活動の担い手を育成します。
- ◆展開方向04：まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。

展開方向01	1 都市イメージ向上推進事業費	424
	2 歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業費	425
	3 特別展事業費	426
	4 古代のくらし体験学習会事業費	427
展開方向02	5 姉妹・友好都市交流関係事業費	428
	6 国際交流事業補助金	429
	7 まちの魅力発信事業費	430
	8 あまがさき観光局補助金	431
	9 観光地域づくり推進事業費	432
展開方向03	10 若者の夢創造・発信事業費	433
	11 尼崎市文化振興財団補助金等	434
	12 郷土画家「白髪一雄」発信プロジェクト事業費	435
	13 文化団体育成補助金	436
展開方向04	14 史料館紀要発行事業費	437
	15 史料等整備事業費	438
	16 文化財保護啓発事業費	439
	17 文化財収蔵庫企画展事業費	440
	18 歴史資料保存公開事業費	441
	19 田能遺跡サポーター養成事業費	442

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	都市イメージ向上推進事業費	192Q	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—		展開方向	14-1 まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成30年度		
会計	01 一般会計		行政の取組	14-1 シビックプライドの醸成
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	60 企画費			
局	総合政策局	課 広報課	所属長名	藤川 明美

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	治安やマナー、学校教育、自然環境などに関する負のイメージを払拭すべく、市内外の市民・事業者に対して、本市の暮らしやすさや教育の取り組みなどを画像や映像を多用することで分かりやすくまとめた定住・転入促進情報発信サイト「尼ノ國」をさらに周知するほか、本市を総合的にPRする冊子を広く配布するなど、本市の魅力や特徴を生かしたタイプロモーションを展開することで、ファミリー世帯の定住・転入促進のほか、本市のイメージ向上につなげる。
事業概要	定住・転入促進情報発信サイト「尼ノ國」の運営、PR冊子の配布、ロゴマークの活用
実施内容	都市イメージ向上推進事業費 ①尼ノ國サイト運営及びSEO対策 尼ノ國サイトを通じて、本市の情報がより多くの人々に伝わるように、インターネット上で検索した際に「尼ノ國」が上位に表示されるための対策（SEO対策）を講じるための専門的な調査及びサイトの改修を実施したほか、地域の魅力や取組を紹介する記事の掲載を始めた。 ②ひと咲き まち咲き あまがさき PR冊子配布 本市の魅力を市内外に向けて分かりやすく伝えるツールとして、尼崎の歴史や現代に続く文化などの魅力をまとめたPR冊子を公共施設だけでなく、市内各駅ショッピングモール等に広く設置した。 ③「ひと咲き まち咲き あまがさき」ロゴマークの活用 ロゴマークを庁内外に向けた封筒やイベントチラシ、名刺などでの活用を周知し実践してもらうことで、まちへの愛着と誇りをさらに高めるきっかけとなった。

②事業成果の点検

目標指標	尼ノ國サイトページビュー数(月平均)				単位	回			
目標・実績	目標値	14,500	達成年度	令和4年度	11,336	平成29年度	11,904	令和元年度	12,881
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況：(概ね)達成) ・尼ノ國サイトについて、閲覧者に他のページも見てもらうために、各記事に関連する情報がわかる内部・外部リンクを設定してサイト内の回遊率を高めるなど、サイトの充実を図ったほか、サイトに登場する人や活動がメディアでも取り上げられ、各種SNSで紹介してサイトへの誘導を図ったことで、アクセス数も増加した。今後は閲覧者が必要とする尼崎の「利便性」や「暮らしやすさ」の情報をよりわかりやすく発信していく必要がある。</p> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性：維持) ・尼ノ國サイトについて、引き続き「人」にフォーカスを当てながら、生活に直結した身近な情報やおすすめのスポット等も盛り込んだ発信内容にするなど、閲覧者が次の行動に移しやすい共感できる内容を取り上げていく。また、引き続きSEO対策を実施し、調査・分析に基づき、改修や掲載内容の工夫を行い、サイト充実に向けて取り組む。 ・まちの魅力を定住・転入の促進につなげていくため、今年度改定し、本市の多様な住宅地の特徴を生かしたブランディングなどを掲げる住宅マスタープランの取組に沿って、尼崎らしい暮らしを「尼ノ國」サイトなどを活用して周知していく。</p>								

③事業費

(単位：千円)

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	4,323	4,056	3,390	
委託料	2,941	3,526	2,952	尼ノ國サイト委託料等
需用費	1,226	503	384	印刷製本費等
報償費	153	27	54	研修講師謝礼等
役務費	3			手数料
人件費 B	4,439	3,838	3,809	
職員人工数	0.56	0.49	0.49	
職員人件費	4,439	3,838	3,809	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	8,762	7,894	7,199	
国の財産内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	8,762	7,894	7,199	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業費	BZ33	施策	14 魅力創造・発信	
根拠法令	—				
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	平成26年度		
会計	01 一般会計				
款	50 教育費				
項	35 社会教育費				
目	05 社会教育総務費				
展開方向	14-1 まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。				
行政の取組	14-1 シビックプライドの醸成				
局	教育委員会事務局	課	歴史博物館	所属長名	伊元 俊幸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	まちづくりの核となる歴史遺産を活かし、市民との協働のまちづくりを展開し、情報発信することで、市民の地域への愛着を醸成し、尼崎の魅力を高める。
事業概要	戦国時代の城館の土塁が現存する富松城跡の保存・活用を市民との協働で進めるとともに、地域学習の素材として積極的に活用していくための取組を進め、歴史遺産の保存・活用に向けた市民の気運を盛り上げていく。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○戦国歴史ウォーク「富松城から有岡城まで」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・日時: 令和元年9月28日(土) 午後1時～4時30分 ・内容: 富松城跡から伊丹市の有岡城跡まで歩く ・参加者: 72人 ○富松城跡の土地取得 <ul style="list-style-type: none"> ・所在地: 尼崎市富松町2丁目409番、412番 ・面積: 1,315.74㎡

②事業成果の点検

目標指標	事業の参加者数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)							単位	人	
目標・実績	目標値	100	達成年度	令和元年度	平成29年度	208	平成30年度	69	令和元年度	72
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: やや達成できず)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富松城跡を活かすまちづくり委員会との協働で取り組んだウォークイベントには、市内外から72人の参加があり富松城跡の歴史的、文化的な価値を伝え、地域資産としての活用方策について、地域住民をはじめ広く市民とともに考えるという所期の目的は達成することができた。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市有地化した富松城跡での歴史遺産の保存・活用の取り組みを継続的に進めるとともに、富松城跡での実践例を、市内に所在する他の歴史遺産にも活用していくことができるよう取り組んでいく必要がある。 									

③事業費

(単位:千円)

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	120	151,040	50	
需用費	120	40	50	事業用消耗品
公有財産購入費		151,000		富松城跡土地取得
人件費 B	2,407	1,950	1,867	
職員人工数	0.34	0.32	0.31	
職員人件費	2,407	1,950	1,867	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	2,527	152,990	1,917	
国の財産内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	2,527	152,990	1,917	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	特別展事業費	C21A	施策	14 魅力創造・発信	
根拠法令	—				
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	昭和46年度		
会計	01 一般会計				
款	50 教育費				
項	35 社会教育費				
目	20 資料館費				
展開方向	14-1 まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。				
行政の取組	14-1 シビックプライドの醸成				
局	教育委員会事務局	課	歴史博物館	所属長名	伊元 俊幸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	国史跡に指定されている田能遺跡にみられる弥生文化と他地域との関連・波及状況、弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展などを紹介し、弥生文化の重要性について周知を図ることにより、文化財及び郷土文化に対する市民の関心を高める。
事業概要	田能資料館で、田能遺跡や弥生文化などをテーマとした特別展や企画展を開催する。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○特別展 <ul style="list-style-type: none"> ・第49回特別展「どくちゃん」(会期: 令和元年10月8日～12月15日) <ul style="list-style-type: none"> 観覧者数6,467人 関連事業…展示解説会と「縄文時代の服を着てみよう」(3回) 参加者数40人 「土偶をつくってみよう」(1回) 参加者数38人 ○企画展 <ul style="list-style-type: none"> ・前期企画展「弥生時代のくらし」(会期: 令和元年5月1日～9月1日) <ul style="list-style-type: none"> 観覧者数12,683人 関連事業…展示解説と「弥生時代の土器をさわってみよう」(3回) 参加者数42人 ・後期企画展「田能資料館のトリセツ」(会期: 令和2年2月4日～3月29日) <ul style="list-style-type: none"> 観覧者数…4,789人 関連事業…展示解説(1回) 参加者数12人

②事業成果の点検

目標指標	1日あたりの事業参加者数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)							単位	人	
目標・実績	目標値	140	達成年度	令和元年度	平成29年度	130	平成30年度	113	令和元年度	111
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: やや達成できず)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日あたりの参加者数は、前年実績をほぼ維持しているが、開催日数の増加等に伴い特別展・企画展の参加者の総数は増加しており、市内に所在する数少ない国指定史跡である田能遺跡の魅力や重要性等についてより深く理解してもらう機会の提供につながった。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業参加者数の確保はもとより、より一層魅力ある内容の特別展・企画展を開催することができるよう取り組んでいく必要がある。 									

③事業費

(単位:千円)

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	673	710	715	
需用費	173	217	217	ポスター印刷等
役員費	4			
委託料	496	493	498	展示資料運搬列品業務
人件費 B	5,399	5,082	3,967	
職員人工数	0.24	0.20	0.04	
職員人件費	1,902	1,566	311	
嘱託等人件費	3,497	3,516	3,656	
合計 C(A+B)	6,072	5,792	4,682	
国の財産内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	6,072	5,792	4,682	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	古代のくらし体験学習会事業費	C21K	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 昭和45年度	展開方向	14-1 まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。
会計	01 一般会計			
款	50 教育費			
項	35 社会教育費			
目	20 資料館費			
局	教育委員会事務局	課 歴史博物館	所属長名	伊元 俊幸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	弥生文化をより身近なものとして理解するため、古代のくらしを体験できる学習会を展開して弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展に対する認識を新たに、市民の歴史学習を支援するとともに、文化財に対する関心を高める。
事業概要	田能資料館で、勾玉づくりや石の鏝づくりなどを体験する学習会を開催する。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンウィークに田能資料館へ行く！ 弥生のムラでわくわく体験 開催日：5月5日・6日 参加者：14人 ・勾玉をつくろう 開催日：7月27日、7月28日、12月22日 参加者：67人 ・石の鏝をつくってとばそう！ 開催日：8月1日 参加者：24人 ・銅剣をつくろう 開催日：12月21日、1月11日 参加者数50人 ・弥生土器をつくろう 開催日：1月19日、2月23日 参加者数28人

②事業成果の点検

目標指標	事業参加者数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)	単位	人
目標・実績	目標値 300 達成年度 令和4年度 平成29年度 287 平成30年度 198 令和元年度 183		
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況： やや達成できず)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業参加者数は前年度より減少しているが、子どもの参加も多く、弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展に対する認識を新たに、市民の歴史学習を支援するとともに、文化財に対する関心を高めることができた。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性： 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代の生活文化を子どもから大人まで学べる貴重な体験学習の場の提供は、田能資料館が開館以来取り組んできた事業であり、今後とも継続的に実施していくことができるよう、田能遺跡サポーターとの協働も含めて取組を進めていく。 		

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	100	121	132	
報償費	72	94	95	講師謝礼
旅費	3	3	13	講師交通費
需用費	25	24	24	事業用消耗品
人件費 B	3,295	2,287	1,800	
職員人工数	0.15	0.09	0.02	
職員人件費	1,189	705	155	
嘱託等人件費	2,106	1,582	1,645	
合計 C(A+B)	3,395	2,408	1,932	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	3,395	2,408	1,932	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	姉妹・友好都市交流関係事業費	102F	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 昭和34年度	展開方向	14-2 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人の交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	05 一般管理費			
局	総合政策局	課 文化振興担当	所属長名	松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	姉妹・友好都市から訪問団の受け入れと本市からの訪問団の派遣を通じ、提携趣旨である文化・産業等の交流を図ることで、姉妹・友好都市の市民間の相互理解と親善を深め友好を促進する。
事業概要	アウクスブルク市及び鞍山市との訪問団の相互派遣及び各種交流事業を実施する。
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 姉妹都市提携60周年記念事業 4,042千円 姉妹都市提携記念60周年記念式典に尼崎市代表团・高校生吹奏楽部・市民団をアウクスブルク市へ派遣し両市の友好交流を深める。 5月9日～14日記念式典、市内視察、両市高校生による合同コンサート、日本春祭り等 2 アウクスブルク市青年使節団受入事業 855千円 姉妹都市アウクスブルク市から青年使節団を受入れ両市の友好交流を深める。 9月19日～25日表敬訪問、市内視察、大植英次氏による高校生レッスンコンサート、ホームステイ、送別会等 3 アウクスブルク市庭園研修生の受入 10月15日～11月22日 表敬訪問、庭園研修等 4 アウクスブルク大学生の研修受入 2月10日～28日 表敬訪問、市立小中高校授業訪問 5 鞍山市代表团受入事業 59千円 12月3日当初予定していた代表団の受入は中止、代理として2名が本市へ訪問 6 尼崎市青少年使節団鞍山市派遣事業 562千円 8月19日～23日卓球をテーマに本市の中学生を鞍山市に派遣、交流試合に参加 7 尼崎市・鞍山市青少年芸術交流事業 31千円 あまがさきQ'sモール展示2月21日～3月1日、本庁舎南館2階秘書課 前展示3月4日～18日。姉妹・友好都市交流において交流活動を行った団員が「みんなのサマーセミナー」で交流内容を発表し、市民へ交流の成果を広げる機会を提供できた。

②事業成果の点検

目標指標	両市の派遣・受入に関わる人数や書画交流など事業に関わった人数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)	単位	人
目標・実績	目標値 1,600 達成年度 令和4年度 平成29年度 1,100 平成30年度 1,483 令和元年度 2,178		
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況： (概ね)達成)</p> <p>【アウクスブルク市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市提携60周年記念事業として尼崎市内の高校生吹奏楽部をアウクスブルク市に派遣し合同コンサートを開催するなど、姉妹都市との交流をより深く図ることができた。 <p>【鞍山市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鞍山市青少年芸術交流事業では、対象者を小学生から20歳未満まで広げることによってより多くの作品を鞍山市へ発表することができた。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性： 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き姉妹・友好都市との交流を展開する。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため渡航できない状況を踏まえて、インターネットを使った新たな交流方法について検討する。 		

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	1,776	5,549	4,219	
報償費	114	1,378	259	
旅費	536	2,070	608	
需用費	122	663	978	
負担金補助及び交付金	920	1,200	800	
その他	84	238	1,574	R1年度:使用料及び賃借料224千円、役員費14千円
人件費 B	1,686	3,754	3,135	
職員人工数	0.08	0.24	0.14	令和元年度姉妹都市提携60周年記念事業
職員人件費	634	1,880	1,088	
嘱託等人件費	1,052	1,874	2,047	
合計 C(A+B)	3,462	9,303	7,354	
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	3,462	9,303	7,354	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	国際交流事業補助金	102J	施策	14 魅力創造・発信	
根拠法令	—				
事業分類	補助金・助成金	事業開始年度	昭和56年度		
会計	01 一般会計				
款	10 総務費				
項	05 総務管理費				
目	05 一般管理費				
展開方向	14-2 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人の交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。				
行政の取組	14-2 観光地域づくりと市内外の交流促進				
局	総合政策局	課	文化振興担当	所属長名	松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	市民レベルの国際親善や相互理解の促進を目的として、市民の国際交流を促進する事業や、姉妹都市・友好都市との交流を促進する事業、日本語講座などに対して補助金を交付し、市民主体の国際交流を促す。
事業概要	市民レベルの国際親善や相互理解の促進を目的とした国際交流事業に対し、補助を行う。
実施内容	<p>姉妹都市・友好都市その他諸外国の市民や団体及び在住の外国人市民との交流を行っている尼崎市国際交流協会に対して、事業補助を行った。</p> <p>1 国際交流促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語講座 (受講生46人) 国際交流イベント(①市民まつり、②第1回AIABAL(参加者22人)、③第2回AIABAL(新型コロナウイルス感染防止対策のため中止)) ※AIABAL:食事をしながら、日本に住む外国人の話を聞き、地域のコミュニケーションを図る場 日本語ボランティア講師養成講座(参加者計18人) 市内在住外国人との交流事業(参加者計62人(内外国人31人)) (①浴衣を着て盆踊り、②抹茶を立ててみませんか、③交通機関を使って昔にふれてみませんか) 日本語スピーチコンテスト(出場者14人、聴講者74人) アウクスブルク市姉妹都市提携60周年記念式典(参加者15人) <p>2 情報発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの運営:概ね2週間毎に更新、ホームページ閲覧者11人/日、閲覧ページ数10/日 情報誌作成:年3回各500部発行、会員及び公的施設に配布

②事業成果の点検

目標指標	国際交流協会主催の交流イベントや諸外国との交流等のうち、補助対象事業に係る人数の合計(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)	単位	人										
目標・実績	<table border="1"> <tr> <th>目標値</th> <th>400</th> <th>達成年度</th> <th>毎年度</th> <th>平成29年度</th> <th>358</th> <th>平成30年度</th> <th>298</th> <th>令和元年度</th> <th>251</th> </tr> </table>	目標値	400	達成年度	毎年度	平成29年度	358	平成30年度	298	令和元年度	251		
目標値	400	達成年度	毎年度	平成29年度	358	平成30年度	298	令和元年度	251				
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: やや達成できず)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実績数の主な減少は、市内在住外国人との交流事業の参加者数減による。また緊密で深い交流を図るAIABAL事業が新型コロナウイルス感染防止対策のため1回しか開催できなかったことも実績数減少の要因である。国際交流イベントについて更に交流が図られ、多くの人に興味を持ってもらえるような事業の実施を主催者である国際交流協会と協議していくこととする。 また、ダイバーシティの観点や近年の多文化共生の流れのなかで、今後需要がますます増えると思われる日本語講座の参加者数を、目標値の中に追加していくなど、目標そのものについても見直すことを検討する。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語講座の受講者数が増えており、ダイバーシティの観点や多文化共生の流れの中で需要がますます増えると思われるニーズの高い事業について検討する。 												

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	591	567	591	
負担金補助及び交付金	591	567	591	
人件費 B	149	151	228	
職員人工数	0.01	0.01	0.02	
職員人件費	79	78	155	
嘱託等人件費	70	73	73	
合計 C(A+B)	740	718	819	
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	740	718	819	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	まちの魅力発信事業費	193Z	施策	14 魅力創造・発信	
根拠法令	—				
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	平成21年度		
会計	01 一般会計				
款	10 総務費				
項	05 総務管理費				
目	60 企画費				
展開方向	14-2 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人の交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。				
行政の取組	14-2 観光地域づくりと市内外の交流促進				
局	総合政策局	課	文化振興担当	所属長名	松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	本市が持つ歴史や伝統、文化や産業などのまちの魅力を増進し、市民や来訪者に対しホスピタリティを持って戦略的・効果的に発信する。市民がわがまちに対して愛着と誇りを持ち、事業者や各種団体が、自主的に観光振興や交流人口拡大に向けた取組を行い、ホスピタリティあふれるまちとなるとともに、交流人口、活動人口、子育てファミリー世帯を中心とした人口(定住人口)が増加している状態を目指す。
事業概要	観光・集客事業により魅力を増進し、ホームページやSNSツールにより魅力を戦略的・効果的に発信する。
実施内容	<p>1 Webコンテンツ、パンフレットの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 尼崎観光交流サイト「あまらぶ」、Twitterによる情報発信、市内駅・ホテル等に設置したパンフレットの運営を行った。 <p>2 観光・集客事業</p> <ul style="list-style-type: none"> あまらぶ体験隊第30・31弾 第30弾「電車をみて、ふれて、楽しく学ぼう! 阪神電車両基地見学会」8月23日 親子15組・30人参加 第31弾「尼崎城と工場の夜景撮影ツアー」2月23日 10人参加 尼崎城新能 1,200人参加 中央図書館にて乱太郎の原画、外国語翻訳漫画本等の展示「乱太郎と本の世界展」開催 8,247人参加 尼崎城にて瓦コンサート開催 133人参加

②事業成果の点検

目標指標	あまらぶ体験隊参加者の満足度	単位	%										
目標・実績	<table border="1"> <tr> <th>目標値</th> <th>100</th> <th>達成年度</th> <th>令和4年度</th> <th>平成29年度</th> <th>—</th> <th>平成30年度</th> <th>91.3</th> <th>令和元年度</th> <th>95.7</th> </tr> </table>	目標値	100	達成年度	令和4年度	平成29年度	—	平成30年度	91.3	令和元年度	95.7		
目標値	100	達成年度	令和4年度	平成29年度	—	平成30年度	91.3	令和元年度	95.7				
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: (概ね)達成)</p> <ul style="list-style-type: none"> あまらぶ体験隊参加者でアンケート結果が得られた23人のうち、大変満足が16人、満足が6人となっており、95.6%(22/23人)が「満足」以上の高い満足度結果を得られた。一方、市外参加者が3人市内参加者が20人となっており、市外参加者が少ない状態になっている。 あまらぶ体験隊のほか、中央図書館にて「乱太郎と本の世界展」や尼崎城にて「瓦コンサート」開催によって数多くの集客ができて、まちの魅力を発信できた。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> パンフレットに空き状況がないよう、頻繁に補充を行い、市民や市外からの来訪者が確実に市内情報を得られるようにする。 市外来訪者の人数を増やすよう、SNSを活用してイベント等の周知PRを行う。 他施設や他事業との連携等、今後も工夫して本市の魅力を発信していく。 												

③事業費

	30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	10,459	3,353	2,994	H30年度までは「まち情報発信事業費」
報償費	880	900	1,300	
需用費	684	2,090	1,300	
委託料	8,073	0	0	
使用料及び賃借料	453	210	241	
負担金補助及び交付金	369	153	153	H30年度は役員費、工事請負費を含む
人件費 B	4,439	3,377	4,355	
職員人工数	0.56	0.41	0.53	
職員人件費	4,439	3,211	4,120	
嘱託等人件費		166	235	
合計 C(A+B)	14,898	6,730	7,349	
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	14,898	6,730	7,349	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	あまがさき観光局補助金	761A	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—			
事業分類	補助金・助成金	事業開始年度	平成30年度	
会計	01 一般会計			
款	35 商工費			
項	05 商工費			
目	35 観光費			
展開方向	14-2 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人との交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。			
行政の取組	14-2 観光地域づくりと市内外との交流促進			
局	経済環境局	課	観光振興課	所属長名
				西川 欣伸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	「尼崎版観光地域づくり推進指針」及び「重点取組地域における尼崎版観光地域づくり戦略」に基づき、本市の魅力と価値を向上させ、訪日外国人旅行者を含む市内外からの観光客を呼び込むことで、「観光による地域の稼ぐ力の向上」を目指す。
事業概要	本市観光振興の核として、(一社)あまがさき観光局に補助金を交付し、地域の観光関係者や近隣自治体等と連携し、重点取組地域における賑わいを創出するとともに、尼崎城を中心とした観光地域づくりの取組を推進していく。
実施内容	(一社)あまがさき観光局では、尼崎市の観光地域づくりの中核機関として、地域の事業者や市民等と連携し、地域資源を活用した観光の振興並びに交流人口の増加を図ることを目的に、下記の事業を実施している。 1 観光地経営事業(観光動向調査や観光プラットフォームの設置運営、国内外への観光プロモーション等) 令和元年度は、地域内14か所に設置したWi-Fiパケットセンサーを活用し、地域の人の流れを把握するため流動調査を実施し、その分析結果を、観光関係者のプラットフォーム「観光地域づくり推進会議」で共有した。 2 にぎわい創出事業(重点取組地域内でのイベント実施やお土産等のコンテンツ開発、他都市との連携事業等) 令和元年度は、「ミーツ・アートinあまがさき」や「あまがさき城下町フェスティバル」等、事業者や地域の団体等と連携したイベントや3都市4城連携事業などの城郭関係都市とも連携した事業を実施した。 3 観光情報発信事業(観光局ホームページやSNSの管理・運営、多様な媒体への広告掲出、観光案内所の管理・運営等) 令和元年度は、ホームページやSNSを活用した観光情報を発信、阪神沿線を中心とした屋外広告の掲出等、観光PRを行った。また、あまがさき観光案内所を運営し3万8千人に利用された。

②事業成果の点検

目標指標	市内の観光客入込客数						単位	万人		
目標・実績	目標値	280.0	達成年度	令和4年度	平成29年度	228.1	平成30年度	242.5	令和元年度	259.7
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況：(概ね)達成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)あまがさき観光局や尼崎城址公園指定管理者が中心となり、民間事業者とも協働しながらイベント等を開催し、尼崎城来城者の獲得、地域の交流人口増加に向けて取組を実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年3月1日から臨時休館した尼崎城の有料入城者数は14.6万人と目標値を下回ったが、市内の観光客入込客数は259.7万人と前年度より増加している。 ・新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、将来の観光需要回復に向けた方向性を検討する必要がある。 ・令和2年10月にオープンする歴史博物館や寄贈を受けた尼子騷兵衛氏の資料展示等、関係部局が地域の関係者と連携し、重点取組地域の周遊に繋がる一体的な取組を行っていく必要がある。また、観光動向調査等のデータから、人の周遊を促すための施策を検討・実施し、その結果や効果を地域で共有するとともに、PDCAを回していく必要がある。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性：維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、観光客数の回復を図る取組に注力する。 ・歴史博物館や寄贈を受けた尼子騷兵衛氏の資料展示等、地域一体となって来訪者を獲得し周遊を促進する取組を強化する。また、観光局にて登用した民間人材の事業部長を中心に、観光のエリア戦略で定めるターゲットの獲得に向けて必要なデータを整理・収集するとともに、事業目的ごとに費用対効果を統一的に検証することで、指定管理者とも連携・役割分担を図り、地域への周遊促進につながる有効かつ効果的な事業を展開していく。 									

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	0	72.126	90.825	
負担金補助及び交付金		72.126	90.825	外部人材人材費補助の執行額(令和元年度)
人件費 B	0	2,271	3,109	
職員人工数		0.29	0.40	
職員人件費		2,271	3,109	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	0	74.397	93.934	
国庫・県支出金		25,000	18,500	社会資本整備総合交付金1/2、地方創生推進交付金1/2
市債				
その他				
一般財源		49.397	75.434	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	観光地域づくり推進事業費	761B	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	平成30年度	
会計	01 一般会計			
款	35 商工費			
項	05 商工費			
目	35 観光費			
展開方向	14-2 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人との交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。			
行政の取組	14-2 観光地域づくりと市内外との交流促進			
局	経済環境局	課	観光振興課	所属長名
				西川 欣伸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	本市のイメージを一新する歴史・文化を取り込んだ観光施策を中心市街地である阪神尼崎駅周辺地区を中心に展開するとともに、地域資源を活かした観光振興を進め、交流人口の増加や経済活性化、シビックプライドの醸成につなげる。
事業概要	市内小学生の尼崎城無料招待や新たな尼崎城寄附によるシビックプライドの醸成を行うなど、観光地域づくりの取組を推進していく。
実施内容	1 尼崎城集客対策事業 83千円 市内小学生の無料招待や市内のイベント等で優待券を配布することで、尼崎城のPR及び集客を行い、シビックプライドを醸成する。(令和元年度実績:2,319人) 2 尼崎城関連事業 198千円 尼崎城一般公開後も、阪神尼崎駅周辺エリアの集客施設として引き続き魅力あるものとしていくため、新たな一口城主寄付制度を創設し、運用していく。(令和元年度:みんなが尼崎城主寄付を創設 41件1,880千円) 3 阪神間日本遺産認定申請準備事業 500千円 日本酒をテーマとした日本遺産の認定に向けて阪神地域の自治体と連携し、まちの魅力と価値を向上させることを目的とする。平成30年度より継続して認定申請をしており、令和2年度の認定につなげた。 令和元年度は、上記1~3のほか、観光情報等にかかる経費を支出している(1,346千円)。また、開明庁舎の短期的な活用として、(公財)尼崎地域産業活性化機構が尼崎創業支援オフィス「アビーズ」等卒業者のさらなるチャレンジの場として、事業者によるカフェの運営が開始できるよう同庁舎1階の一部を整備した。(2,413千円)

②事業成果の点検

目標指標	市内の観光客入込客数						単位	万人		
目標・実績	目標値	280.0	達成年度	令和4年度	平成29年度	228.1	平成30年度	242.5	令和元年度	259.7
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況：(概ね)達成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)あまがさき観光局や尼崎城址公園指定管理者が中心となり、民間事業者とも協働しながらイベント等を開催し、尼崎城来城者の獲得、地域の交流人口増加に向けて取組を実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年3月1日から臨時休館した尼崎城の有料入城者数は14.6万人と目標値を下回ったが、市内の観光客入込客数は259.7万人と前年度より増加した。 ・尼崎城のPRとシビックプライドの醸成を目的に、市内小学生を尼崎城に無料招待した結果、2,319人の来城があったが、来城者数は招待者全体の約10%に留まった。 ・令和元年度に一部整備した開明庁舎の他の空き床についてもさらなる活用方法を検討する必要がある。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性：改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学生の尼崎城無料招待について来年度以降は、令和2年10月にオープンする歴史博物館とも連携をしながら、校外学習などで歴史・文化を学ぶ機会を創出し、シビックプライドの醸成を図っていく。 ・尼崎城天守の魅力向上や維持管理に寄与する寄附金の継続的な運用が図れるよう、内部展示の充実等魅力的な基金活用や募集方法を検討していく。 ・開明庁舎については、空き床のイベント活用等短期的な活用を検討し、周遊拠点としての賑わい創出を図る。 									

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	0	4,540	24,990	開明庁舎の移管に伴う維持管理費の増(令和2年度)
委託料		514	16,905	尼崎城集客対策事業等
使用料及び賃借料		553	1,367	JR尼崎駅観光案内コーナー賃料等
工事請負費		2,413	0	開明庁舎の短期的活用のための整備費用
負担金補助及び交付金		800	800	阪神間日本遺産認定申請準備会負担金等
その他		260	5,918	旅費、需用費、役員費
人件費 B	0	3,916	3,498	
職員人工数		0.50	0.45	令和元年度より「尼崎版観光地域づくり推進事業費」等を事業組替
職員人件費		3,916	3,498	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	0	8,456	28,488	
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源		8,456	28,488	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	若者の夢創造・発信事業費	1930	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—		展開方向	14-3 まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、新たな文化芸術活動の担い手を育成します。
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成25年度	行政の取組	14-3 新たな魅力づくりによる文化振興
会計	01 一般管理費			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	60 企画費			
局	総合政策局	課	文化振興担当	所属長名 松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	「尼崎市文化ビジョン」に基づき、若者の夢とチャレンジを応援する事業を実施することで、地域文化を創造する次の担い手を育成するとともに、まちの魅力を推進する。
事業概要	本市の魅力や地域資源を活用しながら、若い人の夢やチャレンジを応援することを目的とした事業を行う。
実施内容	<p>1 ティーンズサポートチケットPR事業 若者に本物の音楽や舞台などの芸術にふれる機会を提供するため、尼崎市文化振興財団等が実施する公演等を若年層が500円で鑑賞できる「ティーンズサポートチケット」のPRを行った。(応募者数107人)</p> <p>2 尼崎落研選手権 本市には多くのお笑いタレント・落語家が在住し、地域寄席が市内各地で開催されていることから、「お笑い」「落語」も地域資源の一つであると捉え、「尼崎落研選手権」を開催。(参加大学11大学、来場者180人)</p> <p>3 あまらぶアートラボ運営事業 若手アーティストの発表・創作の場として若い人の夢やチャレンジを応援するという取組で、展覧会やワークショップなどを開催。若手アーティストを姉妹都市アウクスブルク市との間で相互派遣し、令和元年度はアウクスブルク市へアーティスト庄波希氏を派遣、現地のメディアアートイベントLab30で作品を発表した(観客数180人)。令和元年度は、展覧会5回、ワークショップ20回、トークイベント4回、その他イベントを1回(瓦コンサート、図書館含まず)開催し2,666人が参加した。</p> <p>4 文化未来奨励賞 芸術性の高い優秀な作品などを創作し、全国規模の活動を展開している本市ゆかりの若手芸術家を顕彰。令和元年度は有識者の推薦及び公募による自薦・他薦合わせ14名の応募があり、能楽コーディネーターの山村貴司氏を第2回の受賞者として決定した。また第1回受賞者の美術家小笠原周氏によるワークショップを4回開催、参加者21人。</p> <p>5 公開レッスン・コンサート事業 世界的指揮者大植氏が市内中学・高校の吹奏楽部を対象に、公開レッスンコンサートを開催。(来場者1,300人)</p>

②事業成果の点検

目標指標	若者支援を対象にした文化芸術事業への参加者数	単位	人
目標・実績	目標値 4,950 達成年度 令和4年度 平成29年度 3,583 平成30年度 4,369 令和元年度 4,763		
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: (概ね)達成)</p> <p>1 ティーンズサポートチケットPR事業 公演数を増やし若者が興味を持つミュージカルも対象にし、昨年度67人から40人増え107人になった。</p> <p>3 あまらぶアートラボ運営事業 アウクスブルク市へアーティストを派遣し若者が世界へ飛躍する機会を提供できた。</p> <p>4 文化未来奨励賞 若手芸術家を顕彰し受賞者によるワークショップを開催するなど若者の夢とチャレンジを応援できた。</p> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの応募があるよう文化未来奨励賞を広く周知する。引き続き、本市の魅力や地域資源を活用しながら、若者の夢やチャレンジを応援する事業を行う。 今後の文化事業の実施において、Web環境を通じた情報発信の活用を検討する。 		

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	11,667	22,103	25,575	
報償費	5,146	5,930	6,051	
需用費	3,576	2,000	2,530	
委託料	1,611	12,963	15,557	
使用料及び賃借料	1,138	1,118	1,124	
その他	196	92	313	R1: 役務費89千円、旅費3千円
人件費 B	25,916	13,791	13,133	
職員人工数	2.20	1.46	1.65	
職員人件費	17,439	11,435	12,825	
嘱託等人件費	8,477	2,356	308	
合計 C(A+B)	37,583	35,894	38,708	
国の財産内訳				
市債				
その他	1,000	1,035	1,038	文化振興基金繰入金、実費弁償金
一般財源	36,583	34,859	37,670	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	尼崎市文化振興財団補助金等	1F1A	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—		展開方向	14-3 まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、新たな文化芸術活動の担い手を育成します。
事業分類	補助金・助成金	事業開始年度 昭和49年度	行政の取組	14-3 新たな魅力づくりによる文化振興
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	63 文化振興費			
局	総合政策局	課	文化特命担当、文化振興担当	所属長名 檜垣 龍樹、松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	優れた文化芸術に親しむ機会の提供や豊かな市民文化活動の推進を図るため、市民文化活動の拠点施設である尼崎市総合文化センターを運営する尼崎市文化振興財団に対し、ホール管理費・文化事業費等の補助金を交付することで、良質な文化芸術に触れる機会を提供し、市民が文化芸術に親しんでいる状態を目指す。
事業概要	本市文化振興の中核を担う尼崎市文化振興財団に補助金を交付し、文化の向上発展を図る。
実施内容	<p>優れた文化芸術に親しむ機会の提供や豊かな市民文化活動の推進を図るため、以下の事業を実施。</p> <p>1 運営事業費補助(財団職員人件費・ホール管理費・文化事業費(美術展、団体育成)) 財団の管理運営にかかる経費の一部を補助することにより、継続的・安定的な経営を図る。</p> <p>2 文化振興事業(市展・ふれあいギャラリー・文芸祭・市民芸術賞・文化功労賞・富松新能・尼崎新能・尼崎城新能・演劇祭・新人お笑い大賞)(※文楽公演は新型コロナウイルス感染予防のため中止)</p> <p>3 郷土画家「白髪一雄」作品発信事業 作品を広く一般に公開するとともに、市内の小学校等を対象にアウトリーチ事業の実施</p> <p>4 ちかまつ等関係事業(近松ナウ・近松祭) 「近松ナウ」、「近松祭」の実施、「近松のまち・あまがさき」のPR (※「近松賞」は第7回受賞作品の公演が新型コロナウイルス感染予防のため延期)</p> <p>5 施設整備 利用者等の安全を確保するとともに、事故の未然防止、事業の円滑な実施、耐震化・老朽化等への対応のための施設・設備更新工事等</p>

②事業成果の点検

目標指標	尼崎市総合文化センター入場者数 (適切な成果指標の設定が困難なため活動指標を設定)	単位	人
目標・実績	目標値 450,000 達成年度 令和4年度 平成29年度 378,000 平成30年度 364,000 令和元年度 348,000		
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: やや達成できず)</p> <p>・総合文化センターにおいて、音楽・パレエ・演劇・古典芸能などのホール事業、白髪一雄記念室をはじめとする美術展事業、市展や文芸祭等の文化振興事業など幅広い事業を実施し、市民に文化芸術に触れる機会を提供した。</p> <p>・入場者数が減少しているなか、本市の文化振興を推進していくため、尼崎市文化振興財団の機能強化や効果的・効率的な運営、また施設の耐震化等を進めていくために引き続き市と財団とで連携し、協議・検討を進めていく必要がある。</p> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化振興の推進について検討を進めるなかで、市と尼崎市文化振興財団の役割分担の明確化や、文化ビジョンの柱に沿った文化事業の展開、同財団の効果的・効率的な運営及び、補助金の有効な活用について検討を進め、総合文化センターの入場者数の向上へ繋げる。 施設の耐震化等の着手に向け、整備内容や手法について調整するとともに、指定管理者制度導入についても検討を進める。 		

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	292,395	294,891	282,838	
役務費	469	469	469	
負担金補助及び交付金	291,926	294,422	282,369	
人件費 B	4,598	5,874	6,452	
職員人工数	0.58	0.75	0.83	
職員人件費	4,598	5,874	6,452	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	296,993	300,765	289,290	
国の財産内訳				
市債				
その他	5,219	1,947	6,763	文化芸術振興費補助金
一般財源	291,774	293,492	282,527	市町村振興協会市町交付金

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	郷土画家「白髪一雄」発信プロジェクト事業費	IF1C	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	令和元年度	
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	63 文化振興費			
展開方向	14-3 まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、新たな文化芸術活動の担い手を育成します。			
行政の取組	14-3 新たな魅力づくりによる文化振興			
局	総合政策局	課	文化振興担当	所属長名
				松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	海外でも評価の高い白髪氏の作品や、本市に所縁の深い人物として白髪氏の人物像を継続して全国にプロモーションしていき、広く周知に取り組む。
事業概要	全国の美術館で本市と所縁の深い白髪氏の作品の展覧会を行うことにより、本市の魅力プロモーションする。
実施内容	白髪一雄発信プロジェクトとして、共催という形で青森県立美術館で特集展示を行った。また東京オペラシティアートギャラリーでの展覧会では特別協力として参加した。 青森県立美術館 令和元年9月13日～12月15日 本市から作品37点貸与 東京オペラシティ 令和2年1月11日～3月12日(当初は～3月22日まで開催) 本市から作品14点貸与

②事業成果の点検

目標指標	展覧会の入館者数(適切な成果指標の設定が困難なため活動指標の実績値のみを表記)	単位	人
目標・実績	目標値 18,000 達成年度 令和3年度 平成29年度 — 平成30年度 — 令和元年度 31,142		
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: (概ね)達成) 東京オペラシティでの展覧会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため会期中途中で終了したものの、青森県立美術館での展覧会では22,896人、東京オペラシティでの展覧会では8,246人が来館し、多くの人に白髪一雄氏の作品を鑑賞してもらった。白髪氏の作品を通じて、本市に所縁の深い人物として全国にプロモーションできた。</p> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持) 引き続き、全国の美術館で、海外でも評価が高く本市と所縁の深い白髪氏の作品の展覧会を行うことにより、本市の魅力プロモーションしていく。また、令和2年度は高松市美術館にて展覧会を予定している。(本市から作品17点貸与予定。)</p>		

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	0	2,996	3,000	
旅費		196	200	
委託料		2,800	2,800	
人件費 B	0	1,925	1,788	
職員人工数		0.23	0.23	
職員人件費		1,801	1,788	
嘱託等人件費		124	0	
合計 C(A+B)	0	4,921	4,788	
国庫・県支出金				
市債				
その他		2,996	3,000	文化振興基金繰入金2,995,860円
一般財源		1,925	1,788	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	文化団体育成補助金	IF1D	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	—			
事業分類	補助金・助成金	事業開始年度	昭和40年度	
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	63 文化振興費			
展開方向	14-3 まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、新たな文化芸術活動の担い手を育成します。			
行政の取組	14-3 新たな魅力づくりによる文化振興			
局	総合政策局	課	文化振興担当	所属長名
				松長 昌男

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	尼崎市文化団体協議会に対し、補助金を交付し、多彩で創造的な文化活動の促進を図る。
事業概要	尼崎市文化団体協議会に対し、補助金を交付する。
実施内容	市内で活動している文化団体17団体間の連携と協調を図るとともに、地域文化の向上を図るため、尼崎市文化団体協議会に対し、補助金を交付する。 【構成団体】 ・尼崎ピアノ音楽協会 ・尼崎吟詠協会 ・尼崎能楽会 ・尼崎邦楽文化協会 ・尼崎市囲碁協会 ・尼崎皞月協会 ・尼崎市オーケストラ協会 ・尼崎市菊花協会 ・尼崎市合唱連盟 ・尼崎市合奏連盟 ・尼崎市吹奏楽連盟 ・尼崎俳句協会 ・尼崎舞舞協会 ・尼崎マンドリン・ギター協会 ・尼崎民謡民舞連合協会 ・尼崎洋舞家協会 ・尼崎川柳協会 (17団体 順不同)

②事業成果の点検

目標指標	尼崎市文化団体協議会への加盟団体数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)	単位	団体
目標・実績	目標値 25 達成年度 令和元年度 17 平成29年度 18 平成30年度 18		
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: やや達成できず) 会員の高齢化や新規加入者の減少により解散、退会する団体が続き、目標は達成できていないが、文化活動を行っているそれぞれの組織が、文化団体協議会への加盟を通じて、尼崎薪能の手伝いなど連携や協調を図り、多種多様な文化事業を行った。</p> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持) 文化団体自身が単に自立的な活動としてだけでなく、他団体との連携や協調を図りながら活動することで、市民の文化振興に寄与していく。</p>		

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	71	67	67	
負担金補助及び交付金	71	67	67	
人件費 B	254	255	265	
職員人工数	0.01	0.01	0.02	
職員人件費	79	78	155	
嘱託等人件費	175	177	110	
合計 C(A+B)	325	322	332	
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	325	322	332	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	史料館紀要発行事業費	161K	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	尼崎市立地域研究史料館の設置及び管理に関する条例			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 昭和46年度	展開方向	14-4 まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	40 地域研究史料館費			
局	教育委員会事務局	課	歴史博物館	所属長名 伊元 俊幸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	研究紀要を編集・刊行し、市民・研究者等に研究発表の場を提供する。紀要の刊行・活用により、市民の地域の歴史・文化に対する理解を助け、市民等との協働による地域資源の保存・活用に資する。
事業概要	尼崎及び歴史的関連地域に関する論文、回想、史料紹介などを掲載した紀要『地域史研究』を編集・刊行する。
実施内容	<p>〔事業推移〕 昭和46年度 史料館紀要『地域史研究』創刊 令和元年度第119号刊行</p> <p>〔刊行物の概要〕 A5判 本文平均200ページ 600部刊行 尼崎及び歴史的関連地域に関する論文、史料紹介などを掲載 学校・図書館等市内公共施設、各地の文書館等専門機関に配布または刊行物交換。希望者には有償頒布。</p> <p>〔令和元年度実績〕 歳出決算額 474,422円 歳入決算額 224,048円 紀要年間販売冊数94冊(過去刊行の在庫販売を含む)</p>

②事業成果の点検

目標指標	紀要販売件数と、史料館相談利用において紀要を活用した件数の合計 (成果指標を数値化できないため、活動指標を設定する)				単位	件				
目標・実績	目標値	320	達成年度	毎年度	平成29年度	198	平成30年度	209	令和元年度	120
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: 下回った)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・執筆陣は多岐であり、また市民からの寄稿数も多く、市民・研究者等の研究発表の場として、一定の役割を果たしている。 ・ウェブサイトでの閲覧利用が定着してきたことに加え、約1か月間、新型コロナウイルス感染拡大予防のための閲覧利用を停止した影響もあり、紀要の相談利用における活用、販売実績ともに減少した。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紀要の刊行による研究蓄積と、それをもとにした相談利用は史料館事業の根幹をなすものであり、文化財収蔵庫との統合後の歴史博物館業務においても基幹業務として維持する。 ・相談利用における紀要の活用を促進するため、紀要の論文・記事情報に関する職場内研修を定期的を実施する。 ・引き続き魅力ある誌面づくりに取り組み、刊行後はSNS等を通して刊行物のさらなる情報発信に努める。 									

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	463	474	551	
報償費	148	160	180	史料館紀要原稿料
需用費	199	211	371	史料館紀要印刷製本費
使用料及び賃借料	116	103		組版ソフト類賃借料
人件費 B	5,194	5,239	5,035	
職員人工数	0.39	0.40	0.43	
職員人件費	3,092	3,133	3,207	
嘱託等人件費	2,102	2,106	1,828	
合計 C(A+B)	5,657	5,713	5,586	
Cの財源内訳				
市債				
その他	235	224	203	史料館紀要等頒布実費弁償金
一般財源	5,422	5,489	5,383	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	史料等整備事業費	162A	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	公文書館法、尼崎市立地域研究史料館の設置及び管理に関する条例			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 昭和50年度	展開方向	14-4 まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	40 地域研究史料館費			
局	教育委員会事務局	課	歴史博物館	所属長名 伊元 俊幸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	公文書館法の定めるところにより、市の歴史的公文書や古文書等歴史資料を市民共有の地域資源として収集・保存・公開し、市民の利用に供している。これにより、市民の地域への理解・関心・愛着をはぐくみ、協働による地域づくり、市民社会の実現に資する。
事業概要	尼崎市の歴史的公文書等歴史資料を収集・整理・保存し後世に伝え、市民・研究者等に公開し、活用を図る。
実施内容	<p>(令和元年度末現在、史料所蔵点数) 歴史的公文書19,277冊 古文書・近現代文書類2,568件 153,984点 その他史料含む所蔵点数合計329,713点 (令和元年度の整理・公開作業) 例年廃棄の歴史的公文書選別・収集及び、件名目録データ整備 Web上における古文書類他史料目録データ公開の拡充 市民ボランティアによる整理作業の実施 ボランティア作業実績 305回 のべ403人 (平成30年度実績:487回 のべ618人) (令和元年度歳出決算) 338,278円</p>

②事業成果の点検

目標指標	年間相談利用人数 (適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)				単位	人				
目標・実績	目標値	2,345	達成年度	令和4年度	平成29年度	2,345	平成30年度	2,330	令和元年度	1,907
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: (概ね)達成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大予防のため令和2年3月中は史料館の閲覧業務を休止したが、電話・FAX・メール等での相談利用に応じた結果、目標を概ね達成することができた。 ・令和元年度中の新規受入史料点数は3,513点であり、古文書・近現代文書類、歴史的公文書については、4,235点を年度中に整理・公開した。歴史博物館への統合に向けた史料の整理と見直し、デジタル・アーカイブ化に向けたデータ整備をボランティアと協働して進めた。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル・アーカイブ化の準備をボランティアと協働し進めるとともに、アーカイブズ(公文書館機能)の認知度を高め、相談利用につなげるため、SNS・ウェブサイト等を活用した収蔵史料情報等のさらなる情報発信に取り組む。 ・史料の保管スペースを確保するとともに、史料の整理・見直しを継続する。 ・歴史的公文書の閲覧公開について制度の見直し、検討を進める。 									

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	501	338	637	
需用費	371	247	300	史料購入
委託料	130	91	187	所蔵写真デジタル化
備品購入費			150	史料等購入
人件費 B	20,448	21,800	20,767	
職員人工数	0.88	1.06	0.93	
職員人件費	6,976	8,302	6,551	
嘱託等人件費	13,472	13,498	14,216	
合計 C(A+B)	20,949	22,138	21,404	
Cの財源内訳				
市債				
その他				
一般財源	20,949	22,138	21,404	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	文化財保護啓発事業費	BZ31	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	文化財保護法、尼崎市文化財保護条例			
事業分類	法定事業(裁量含む) 事業開始年度 昭和39年度			
会計	01 一般会計			
款	50 教育費			
項	35 社会教育費			
目	05 社会教育総務費			
展開方向	14-4 まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。			
行政の取組	14-4 歴史遺産等の保存と活用			
局	教育委員会事務局	課	歴史博物館	所属長名 伊元 俊幸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	長い歴史を有する本市に多数現存している史跡・文化財を市民共有の財産として保護・活用していく。埋蔵文化財については、埋蔵文化財包蔵地内での開発事業に際し、事業者や庁内関係課との連絡・調整を密にして、保護・活用を図る。
事業概要	遺跡の発掘調査を実施するとともに、遺跡から出土した土器等を学習教材として活用した出張授業や、出土資料の整理作業を学芸員と協働で行うボランティアの養成等を行うことにより、文化財の保護・啓発に努める。
実施内容	1 文化財の保護 ・文化財保護審議会 ・出土遺物保存処理事業 ・市内遺跡発掘調査事業 ・遺跡調査システム導入事業 ・国指定文化財管理事業補助金 2 文化財の啓発 ・田能遺跡顕彰事業 ・トキ・土器ふれあい講座事業 ・文化財保存活用サポートボランティア養成事業

②事業成果の点検

目標指標	指定文化財の毀損・滅失・解除数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)				単位	件				
目標・実績	目標値	0	達成年度	毎年度	平成29年度	0	平成30年度	0	令和元年度	0
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況：(概ね)達成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度において国・県・市指定文化財とも毀損・滅失・解除はなかった。 新たに市指定文化財を2件指定した。 埋蔵文化財については、法令に基づき適切に対応した。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性：維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財保護法改正等による文化財行政が複雑化・多様化に対応していくため、引き続き、文化財の保護及び活用に着実に取り組んでいく必要がある。 									

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	6,485	5,057	18,093	
需用費	592	594	555	発掘用品等
委託料	2,460	2,458	2,823	市内遺跡発掘調査作業委託等
使用料及び賃借料	1,329	1,328		遺跡調査システムリース料
負担金補助及び交付金	1,117	639	13,341	国指定文化財管理事業補助金等
その他	987	38	45	ボランティア保険料等
人件費 B	35,162	38,576	38,134	
職員人工数	3.58	3.95	3.96	
職員人件費	26,366	28,849	27,935	
嘱託等人件費	8,796	9,727	10,199	
合計 C(A+B)	41,647	43,633	56,227	
国の財源内訳				
国庫・県支出金	3,750	3,750	3,750	埋蔵文化財緊急発掘調査事業費補助金(補助率 国1/2 県1/4)
市債				
その他	8	5	22	市政資料等頒布収入
一般財源	37,889	39,878	52,455	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	文化財収蔵庫企画展事業費	BZ35	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	尼崎市立文化財施設の設置及び管理に関する条例			
事業分類	ソフト事業 事業開始年度 平成26年度			
会計	01 一般会計			
款	50 教育費			
項	35 社会教育費			
目	05 社会教育総務費			
展開方向	14-4 まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。			
行政の取組	14-4 歴史遺産等の保存と活用			
局	教育委員会事務局	課	歴史博物館	所属長名 伊元 俊幸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	文化財収蔵庫が所蔵する資料を広く公開し、市民が尼崎の歴史や文化財に関心を高めるとともに、尼崎の魅力発信やシビックプライドの醸成に資する。
事業概要	文化財収蔵庫がリニューアル工事に伴い休館中のため、尼崎市総合文化センター美術ホールを会場に、文化財収蔵庫が所蔵する資料を活用した出張企画展を開催する。
実施内容	○出張企画展「はくぶつかんのコレクション」 ・会期：令和元年度5月16日～6月2日 ・入場者数：929人 ・関連事業：展示解説64人、見学会32人 ・会場：尼崎市総合文化センター 4階美術ホール

②事業成果の点検

目標指標	1日あたりの入館者数(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)				単位	人				
目標・実績	目標値	56	達成年度	令和元年度	平成29年度	55	平成30年度	69	令和元年度	52
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況：(概ね)達成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財収蔵庫が通年で休館中のため、令和元年度は出張企画展1回だけの開催となったが、ほぼ目標値に近い入館者数を記録しており、目標は達成できたと考える。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性：維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に開館する新歴史博物館の事業として再構築を図るなかで、より充実した企画展へと発展させていく必要がある。 									

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	894	846	549	
需用費	352	183	220	ポスター印刷等
委託料	300	300	329	展示資料運搬列品委託
使用料及び賃借料	242	363		展示会場使用料
人件費 B	2,378	1,801	1,632	
職員人工数	0.30	0.23	0.21	
職員人件費	2,378	1,801	1,632	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	3,272	2,647	2,181	
国の財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	3,272	2,647	2,181	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	歴史資料保存公開事業費	BZ3N	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	尼崎市歴史博物館資料取得基金条例		展開方向	14-4 まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成13年度	行政の取組	14-4 歴史遺産等の保存と活用
会計	01 一般会計			
款	50 教育費			
項	35 社会教育費			
目	05 社会教育総務費			
局	教育委員会事務局	課 歴史博物館	所属長名	伊元 俊幸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	歴史資料等の収集・保管を行うことにより地域資産の保存・活用を図る。また、市民との協働による体験学習活動を実施することにより、市民が尼崎の歴史に関心を持ち、地域の歴史に根差した文化活動の促進に寄与する。
事業概要	収集・保管している歴史資料を地域資産として保存し、展示会で公開するとともに、市民との協働による体験学習活動等を実施する。
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 歴史資料保存等関係事業 <ul style="list-style-type: none"> 尼崎の歴史にゆかりのある歴史資料等を寄贈・寄託等により収集し、美術品倉庫等に保管する。 令和2年3月末現在の資料収蔵状況…1,601件、27,200点 歴史博物館資料取得基金廃止に伴い、同基金に属している歴史博物館資料を市費で購入する。 歴史資料公開活用事業 <ul style="list-style-type: none"> 収集する歴史資料等を市内の展示施設(尼信会館)で開催する展示会で公開する。 令和元年度実績 尼崎の2000年展(10.5～11.10、尼信会館)来場者:2,190人 わくわく体験ミュージアム事業 <ul style="list-style-type: none"> 市民が郷土の歴史に関心を持ち、地域に根ざした文化活動の促進に寄与するため、地域の歴史に関わる各種体験学習活動等の教育普及事業を市民との協働で実施している。

②事業成果の点検

目標指標	記載資料数(適切な成果指標及びその目標設定が困難なため、活動指標の実績値のみを表記)	単位	点
目標・実績	目標値 ー 達成年度 ー 年度 平成29年度 27,161 平成30年度 27,168 令和元年度 27,200		
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: ー)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民からの寄贈等による資料収集を行ってきたため、収蔵資料は増加している。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史博物館としての役割と機能を果たしていくため、今後においても歴史資料の収集、保管及び積極的な活用を図っていく必要がある。 		

③事業費

(単位:千円)

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	5,360	151,616	1,503	
需用費	213	12,804	239	ポスター印刷・資料購入等
役務費	4,903	4,947	860	資料保管料等
委託料	242	266		展示資料運搬列品委託
使用料及び賃借料	2		404	会場使用料等
備品購入費		133,599		資料購入
人件費 B	7,511	8,533	4,897	
職員人工数	0.90	1.06	0.63	
職員人件費	7,134	8,302	4,897	
嘱託等人件費	377	231		
合計 C(A+B)	12,871	160,149	6,400	
国の財産内訳				
市債				
その他				
一般財源	12,871	160,149	6,400	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	田能遺跡サポーター養成事業費	C21P	施策	14 魅力創造・発信
根拠法令	ー		展開方向	14-4 まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成28年度	行政の取組	14-4 歴史遺産等の保存と活用
会計	01 一般会計			
款	50 教育費			
項	35 社会教育費			
目	20 資料館費			
局	教育委員会事務局	課 歴史博物館	所属長名	伊元 俊幸

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	市民共有の文化財である田能遺跡を後世に伝えていく活動の担い手として、田能遺跡サポーターを養成し、協働の取組を推進する。
事業概要	田能遺跡サポーターを養成し協働の取組を推進するため、事業のサポートや研修を行う。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 田能資料館と連携した各種事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> 小学校団体見学の指導補助 古代のくらし体験学習会事業の支援・協力 特別展・企画展関連事業の支援・協力 養成・研修活動 <ul style="list-style-type: none"> 土器整理、団体見学・体験学習会事前研修等 冊子「田能資料館のトリセツ」発行

②事業成果の点検

目標指標	参加人数(延べ)(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)	単位	人
目標・実績	目標値 300 達成年度 令和4年度 平成29年度 195 平成30年度 125 令和元年度 219		
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: やや達成できず)</p> <ul style="list-style-type: none"> 田能遺跡サポーターの活動として平成30年度まで取り組んできた復元住居の茅葺屋根の葺き替え作業は終了し、勾玉づくり等の体験学習会や土器の整理作業など、田能資料館で実施する各種事業に協働で取り組んだ。 令和元年度においては、資料館学芸員と田能遺跡サポーターとの連携により、企画展「田能資料館のトリセツ」田能遺跡サポーター倶楽部(ボランティア)がみた資料館の一年一を企画・開催するとともに、冊子「田能資料館のトリセツ」を発行した。 <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民とともに国指定史跡である田能遺跡を末永く後世へと伝えていくためには、市民ボランティアとの連携・協力が欠かせないことから、事業を継続するなかで協働の取組を推進していく。 		

③事業費

(単位:千円)

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	450	200	118	
報償費			18	講師謝礼
需用費			90	消耗品費
役務費			10	保険料
委託料	450	200		養成事業委託
人件費 B	2,363	1,873	1,586	
職員人工数	0.11	0.16	0.11	
職員人件費	872	1,253	855	
嘱託等人件費	1,491	620	731	
合計 C(A+B)	2,813	2,073	1,704	
国の財産内訳				
市債				
その他				
一般財源	2,813	2,073	1,704	